

イワガキ種苗の生産技術開発

1 背景・目的

夏に旬を迎えるイワガキは夏場の味覚として重宝され観光客にも人気が高く、市場関係者からは県産イワガキの安定供給が求められている。

このため、養殖イワガキの生産拡大に向け、養殖に使用する種苗(稚貝)の生産技術開発に取り組む。

2 技術のポイント

- (1) 使用する餌料(植物プランクトン)については、キートセロスにナンノクロロプシスを追加することでキートセロス単独使用より日間成長量を1.1倍増大させることに成功した(図1)。これにより、種苗出荷までに要する飼育日数が短縮され総餌料経費が約7%削減できる。
- (2) 付着時期(写真1)の飼育水槽内の収容数を130万個とすることで、ホタテ貝殻へのイワガキ稚貝の適正な付着数(表裏合計10~30個/枚)(写真2)を確保できる(図2)。

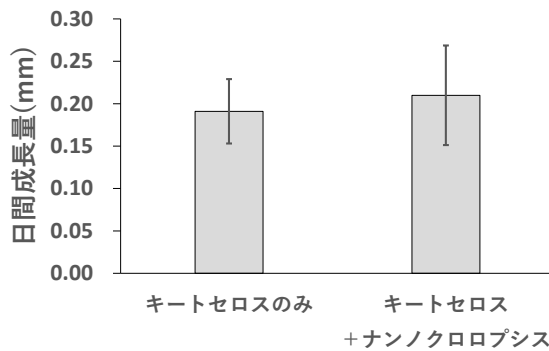


図1 追加給餌の効果

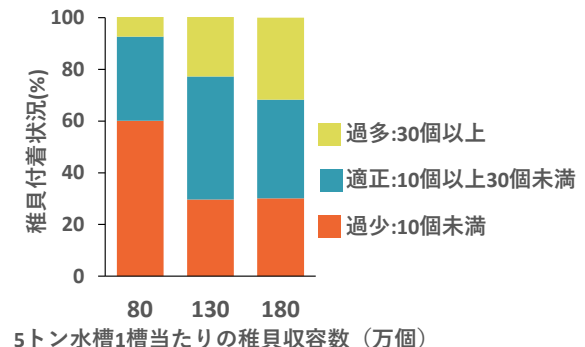


図2 収容数別付着数

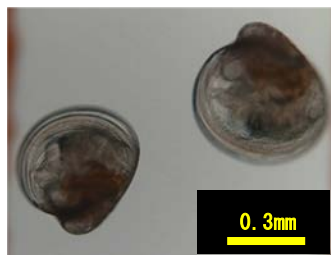


写真1 付着時期のイワガキ

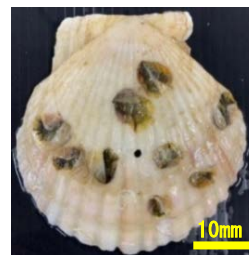


写真2 ホタテ貝殻に付着したイワガキ稚貝

3 成果の活用と留意点

- (1) 種苗の生産技術開発に成功したことから、令和4年度から漁業者への有償配付を開始する。
- (2) 大量死が発生しやすい飼育5~10日目の飼育方法の改善や生産コストの削減に取り組む。